

検査項目の説明

腎機能検査	
尿素窒素	腎機能障害時に上昇するほか、高蛋白食や激しい運動、脱水などにより上昇する場合があります。
クレアチニン	不要になった蛋白の最終産物で、腎臓から排出されます。腎機能障害時に上昇します。
eGFRcreat(推定腎糸球体濾過量)	推定腎糸球体濾過量は年齢、性別、血清クレアチニン値から算出される数値で、腎機能障害の指標となります。

電解質検査	
電解質(Na、K、Cl)	血中に含まれる電解質で腎臓により濃度が一定に維持されています。脱水、下痢、腎機能障害時や利尿剤の服用などで異常値になることがあります。

血清検査	
CRP	健康な方では陰性。感染症や膠原病、悪性疾患で上昇し、治癒すると消失するので、疾患の重症度、病状変化の評価に利用します。
ASLO	溶血性連鎖球菌に対する抗体価で、リウマチ熱、猩紅熱(しょうこうねつ)、急性糸球体腎炎などで上昇します。溶血性連鎖球菌は常在菌であり病的な感染がない健康な方でも、ある程度抗体価を有しています。
RF	リウマトイド因子。関節リウマチ、膠原病、肝疾患などで陽性となるほか、健康な方でも数%が陽性を示すため(高齢者は高値)、RFのみ陽性でCRPなどの炎症反応が正常であり、関節症状が伴われなければ臨床的に問題がないことが多いです。
TP抗体	梅毒感染の有無を調べます。治癒しても陰性化しません。

血清蛋白検査	
総蛋白	血液中に含まれる種々の蛋白質の総和で、個人差も大きく、一日のうちでも変動します。肝障害や悪性腫瘍がある場合に低下します。
アルブミン	総蛋白の中で、肝臓で作られる主要な蛋白であり、体の各構成要素の原料になります。肝障害時、栄養不良、消化吸収不良、ネフローゼ症候群などで低下します。
A/G比	体の構成要素の原料蛋白であるアルブミンと細菌や異物を排除する抗体蛋白であるグロブリンの比を表します。肝障害、炎症反応や悪性腫瘍が存在するときに低下します。
蛋白分画	総蛋白に含まれるアルブミンと種々の蛋白質の内訳です。γグロブリンは免疫に関係する蛋白です。

腫瘍マーカー	
種々の悪性腫瘍の存在で出現する蛋白質です。ただし、健康な方や良性疾患でも異常値を示すことがありますので、異常と判定された場合でも必ずしも悪性腫瘍が存在するとは限りません。定期的に経過観察するか、一歩進んだ検査をする場合があります。	
CEA	腸・胃などの消化器がん、肺がん、卵巣がん、乳がんなどで上昇します。また、喫煙の影響でも上昇します。
SLX	肺腺がん、消化器がん、卵巣がんなどで増加します。がんの特異性の比較的高いのが特徴ですが、肺線維症、気管支拡張症、肺結核などでも高値を示すことがあります。
ProGRP	肺小細胞がんで陽性率が高い腫瘍マーカーです。肺疾患や腎疾患でも高値を示すことがあります。
AFP	主に肝がんの上昇します。慢性肝炎、肝硬変、妊娠などでも上昇します。
CA19-9	膵臓がん、胆道がん、胃がん、大腸がんなどで上昇します。膵炎、子宮・卵巣疾患などでも上昇します。
シフラ	肺がんのうち、扁平上皮がんというタイプで上昇することが多いです。
PSA	前立腺がんの上昇します。前立腺肥大でも上昇します。またAGAのお薬を服用していると値が低めになる傾向があります。
CA125	卵巣がん、子宮がん、膵臓がん、胆道がんなどで上昇します。良性の子宮・卵巣疾患、妊娠初期・月経期でも上昇します。

■腫瘍マーカーと対応するがん

